

令和八年度入学者選抜学力検査問題

(前期日程)

国語

(注意)

- 1 問題紙は指示があるまで開いてはいけません。
- 2 問題紙は本文九ページです。答案用紙は三枚あります。
- 3 答えはすべて答案用紙の指定のところに記入しなさい。
- 4 字数制限のある解答欄への記入に際しては、句読点を一字と数えなさい。
- 5 問題紙と下書き用紙は持ち帰ってください。

— 次の文章は、幼いホッキョクグマのクヌートをめぐるドイツを舞台とした物語の一節です。クヌートは動物園でマティアスたち
に育てられています。これを読んで、後の問いに答えなさい。

散歩に出ると毎日、新しい種族と知り合いになることができた。肌にびったりついた色っぽいポロシャツを着ていて、木の上にすわっている奴がいた。「マレーグマに話しかけてみたら」とマティアスが言った。気取っていないし、⁽¹⁾ザンコク⁽¹⁾そうにも見えないので、おそろおそろ「今日も暑いな」と声をかけてみると、「暑くないよ。寒いよ」という返事をあつけなく返してきた。「君はそんな薄着をしているから寒いんだろう。クヌートを見ろ。いいセーターを着ているだろう」とクヌートが言いかえすと、マレーグマは顔を皺^{しわ}だらけにして笑って、「お前は自分を自分でクヌートと呼んでいるのか。はっはっは。三人称の熊か。これはユカイだ。⁽²⁾それとも、君はまだ赤ん坊なのか」とからかった。あんまり腹が立ったので、⁽³⁾コンリンザイマレーグマ⁽³⁾と話をするのはやめようと思った。クヌートだからクヌートと呼んでどこがおかしい。でも、他人に言われたことの中には、一度気になり始めるとそれ以外のことが考えられなくなることがある。

あらためてマティアスとクリスティアンの会話に耳を澄ましていると、確かにマティアスは自分自身のことを「マティアス」とは呼んでいない。「マティアス」というのは他の人がマティアスを呼ぶ時に使う言葉で、本人は使っていない。これまで気がつかなかったが、何と不思議な現象だろう。それでは自分のことをどう言っているかよく聞いていると、^(注)「わたし^(注)」と言っている。しかも驚いたことにクリスティアンも自分自身を「わたし」と呼んでいる。みんなが自分自身のことを「わたし」と呼んでいて、それでよく混乱しないものだ。

翌朝散歩に出るとマレーグマはまだ奥の穴の中で毛布をかけて寝ていたが、隣人のツキノワグマは岩の上に出ていた。早速「わたし」という言葉を使ってみることにして、咳^{せき}払いして関心を引いてから、「わたしはクヌートという者だが」と言うと、ツキノワグマは小さな目を凝らしてじっとこちらを見て、「カワイイ！」と叫んだ。

「カワイイ」というのは、ひよろひよろしたホモサピエンスの若い牝^{めす}たちが主に使う言葉なので、岩のようなツキノワグマまでそんな言葉を使うなんて意外だった。「それは何語なんですか?」「わたしの祖母が生まれたサセボという国で話されている言葉。でもここでも時々聞く言葉よ。」「それで意味はどういうこと?」「取って食ってやりたいくらい愛らしいっていうこと。」

^Aこれを聞いて、わたしはあわててその場を立ち去った。ツキノワグマに食われてしまうなんてごめんだった。マティアスは動物の言葉は分らないらしく、ゆつくりとわたしの後を追いつながら、「おい、クヌート、どうした? そんなに急がなくてもいいよ。それにしてもツキノワグマはそろそろ^{クラゲン・ベア}襟^{クラゲン}をクリーニングに出した方がいいと思わないか。汚れているだろう。でもそれを言ったら、君をまるごとセンタク機に放り込む方が先だ。君はどうして砂の中でころげまわるようになったんだい。保護色のつもりかい。ベルリンの冬は灰色だからな。北極の冬は真っ白できれいだろうなあ」と言って笑った。

それにしても、取って食いたいほどカワイイというのはどういうことだろう。あいつの故郷のサセボ国では、カワイイものを食う習慣でもあるのか。わたしは美味^{おい}しそうな食べ物を見てもカワイイとは感じない。わたしにとってカワイイものと言えばまずマティアスだが、マティアスを食べたいとは思わない。つまり、可愛^{かわい}いことと美味しいことはわたしの中ではどうしても結びつかないということだ。

散歩は勉強にはなるけれど、勉強というのはどうも心に傷を残すことも多く、帰るといつもくたくたになっていた。自分のことを三人称で呼ぶのは赤ん坊だとか、取って食ってやりたいとか、とにかく他者の言うことを聞いていると、我が身の危険を感じずにはいられない。しかも「わたし」という言葉を使い始めてから、他人の言葉が身体にまともにぶつかってくるようになってしまった。

疲れて眠い時には、マティアスと二人きりでいられたらどんなにいいだろうと思う。二人きりでいると、まるで一人みたいで、「わたし」という名の新しい重荷を肩から下ろすことができる。でも一眠りしてまた元気が回復すると、マティアスと二人だけで遊んでいるよりも、外の世界に出ていってみたいくなる。

一度だけ、カメラマンが一人散歩についてきたことがあったが、あまり気にならなかった。大勢来たら危険だとクリスティアンが頑張ってくれたので、結局撮影は一人ということになったようだ。この時に撮った映像はテレビのニュースで報道されたので、わたしも見る事ができた。クリスティアンが感心したようにマティアスに言った。「撮影されていると分かっていて、よく自然に振る舞えるな。クヌートは本当に育つのかと何十万人という人たちが汗ばんだ手の平を握りしめて祈っているのに、君は拾ってきた雑種の犬と散歩でもしているみたいに見えるよ。」クヌートが拾ってきた雑種の犬だったらどんなにいいだろうと思うよ。「でもね、スターも大切だよ。スターがキャンペーンをやれば、社会に影響を与えることができる。クヌートにはジャンヌ・ダルクになって、地球温暖化ストップの旗を掲げてデモの先頭に立つてほしいんだ。」

散歩はとても勉強になったが、ショーは仕事だった。どうすれば観客が退屈しないかを本能的に割り出して動くとするのだが、それがなかなか複雑で、あまりわざとらしくったり、計画しすぎたりすると、かえって受けないようだ。同じ事ばかりしていると飽きられてしまうが、面白い動きが続きすぎるとそれはそれで観客というものは笑わなくなるもので、波を作って攻めていって、向こうがざわめいたら、さつと引く。静まりそうになったら、また攻めていく、という風に組み合わせていくのがいいようだ。

ヒグマ、ツキノワグマ、マレーグマ、ナマケグマが並んでいる道をわたしは密かに「熊通り」と呼んでいた。この熊通りを行き来することで、自分とヒグマとツキノワグマとマレーグマとナマケグマが（a）して持つ漠然としたイメージをマティアスが「熊」と呼んでいるらしいことも分かってきた。

どの熊も奥に寝室があつて夜はその中に引込んで寝るようで、朝になると正面にあるプール付きの広い岩のテラスに出てくる。

パンダという種類の熊だけはちょっとはずれたところで暮らしていて、テラスはなくて、竹藪に囲まれた檻の中にいた。「クリスティアンはね、熱心にヤンヤンというパンダの世話をしていたのに死なれてしまって、とても悲しんでいた。多分、君のお

かげでやっとその悲しみから立ち直ったんだよ」とマティアスが教えてくれた。何かがいなくなつて寂しくて、そのうち代わり
に別の何かがきて立ち直る、という感じを思い浮かべてみようとしていると、パンダが笹ささの葉を食べるのをやめて、わたしの方
をじつと見た。「あんたもなかなか可愛いね。でも気を付けた方が良い。可愛いというのは絶滅の（b）かもしれない。」わた
しはぎよつとして、「それはどういうことですか」と訊きいてみた。「絶滅しそうだから、絶滅させてはいけない、と人間に感じさ
せる必要がでてる。だから自然がわたしたちの顔を可愛く（5）ヘンボウさせる。ネズミを見てごらん。人間に憎まれても全く気
していない。絶滅の危機にさらされてないからだよ。」

（多和田葉子『雪の練習生』新潮社、二〇一三年、二六四～二六九ページ、一部改変の上、引用、初刊は二〇一一年）

（注）Ich、ドイツ語の一人称。

〔問一〕 傍線部①～⑤の片仮名を漢字に直しなさい。

〔問二〕 傍線部A「これを聞いて、わたしはあわててその場を立ち去った」について、クヌートはなぜこのような行動をとったの
か、「比喩」の二文字を用い、四〇字以上、六〇字以内で説明しなさい。

〔問三〕 空欄aに当てはまる適切な語句を漢字二文字で記しなさい。

〔問四〕 傍線部B「思い浮かべてみようとしている」について、クヌートがここで行っている行為を説明した次の文の空欄に当てはまる適切な語句をそれぞれ漢字二文字で記しなさい。

自分自身が（ア）したことはない（イ）について（ウ）している。

〔問五〕 空欄bに当てはまる適切な語句を記しなさい。

〔問六〕 「わたし」という呼称に対するクヌートの姿勢は三つの段階で発展しているといえます。その発展の過程を一二〇字以上、一五〇字以内で説明しなさい。

二 次の文章は、『十六夜日記』の作者である阿仏尼が自らの娘にあてた書状の一部です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

人の姿、もてなしなどは、生まれつきたる事にては候へども、それもさすがに心向けにより候へば、ほのかならんうしろ手をも、こはごはしからぬやうに、みさをにもてなさば、よろしくはなどか見えざらん、とおぼえ候ふ。ただなべてよき程に、人とうらうらと向かひて、御顔の置きどころづしやかに、姿美しく居なして、水鳥の浮きたるさまおぼえて、御袖の置きやう思ひはづさず、心をそへて、^(A)几帳のはづれゆかしきさまにもてなして、^X御髪のかかりも、おほどかにすたれぬさまながら、あまりよしありとわざとめかしからぬやうに、はづかしきかたをそへて、おほどかに用意くはへて、御ふるまひ候へ。

うちさうどきあいぎやうづき、^(B)にぎははしくなど、あるまじく候ふ。かく申し候へばとて、さるべき人の参りて候はんずるに、神さび、物遠くて、春日野の雪の朝、賀茂の社の川波などおぼえたるやうには候ふまじく候ふ。ただ御もてなしばかりの、重りに、あさはかならぬ筋のありたく候ふ。わざとも人をわかず、なつかしき御人さまにてありたく候ふ。人のきはぎはをおぼしめしわくべく候ふ。

人に向かひて、何の筋ともなき物がたりして、世継が世よりこの御代までの言葉も続かず、^(C)時代も知らぬいたづら物^{ときよ}がたりなど、仰せられ候ふまじく候ふ。^(D)御簾の際ちかく居寄りて、「誰がかうぶりの額つき、靴の音」など申して笑ふ人の候はんに、ゆめゆめ言葉まぜさせ給ひ候ふまじく候ふ。すべて人の年のほどよりもおとなしく、おやすけたるがよく候ふ。人に異名つけなどして笑ひ、心知れるどち、目見あはせて、人のあまねく知らぬほどの事うち笑ひ、そそやなどささやきて、おのづからなぞやなど問ふ人あれば、たださることのなどとして、けしきばみたること、返す返す口惜しきことにて候ふなり。

(『阿仏の文』による、一部省略)

(注) ○うしろ手―後ろ姿。

○みさを―上品でみやびやかなこと。

○づしやか―慎重深く落ち着いたようす。

○春日野―奈良市、春日山のふもと一帯の野原。北に東大寺、中ほどに春日大社や興福寺がある。

○賀茂の社―京都市、賀茂神社のこと。神社のなかに清らかな小川が流れている。

○世継が世―「世継」とは歴代天皇を中心とした治世について仮名で書き記した歴史書のこと、
「世継が世」はそうした

歴史書に書かれた時代を指す。

〔問一〕 傍線部(A)「几帳」、(B)「あいぎやう」、(C)「御簾」、(D)「かうぶり」を、それぞれ漢字は平仮名、平仮名は漢字に直しなさい。

平仮名については、歴史的仮名遣いでも現代仮名遣いでもかまいません。

〔問二〕 傍線部X「ゆかしきさまにもてなして」、Y「いたづら物がたり」を現代語訳しなさい。

〔問三〕 本文中には、かぎ括弧でくくっていない会話が含まれています。かぎ括弧の付いていない会話のうち、二番目と三番目の発言をそれぞれ本文から抜き出しなさい。

〔問四〕 本文中には、訪問者に対してどのように接するのが望ましいかを語っている部分があります。該当部分について、七〇字以内でわかりやすくまとめなさい。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい（設問の都合で送り仮名を省いたところがあります）。

上^{わかクシテ}少^ミ好^ミ学^ヲ、招^{シテ}求^ニ天下^ノ遺書^ヲ、上^{シク}親自^ラ省校^シ、使^{ソウ}莊助^{ジヨ}・司馬

相^{シヨウ}如^{ジヨ}等^ニ以^レ類分^ニ別^ニ之^ヲ。尤^{モツトモ}好^ミ辞賦^ヲ、每^{ごとニ}所^ニ行幸^{スル}及^ビ奇獸異物^{アル}上^上、輒^ア

命^{ジテ}相如^ニ等^ニ賦^{セシム}之^ヲ。上^モ亦^バ自^ラ作^リ詩賦數百篇^ヲ、下^{セバ}筆^ヲ即^チ成^リ、初^{メヨリ}不^ニ

留^セ意^ニ。相如^ニ作^{ルコト}文^ヲ遲^ク、弥^{わたリテ}時^ヲ而^ル後^ニ成^ル。上^{つねニ}每^ニ嘆^ジ其^ノ工^{ナルヲ}妙^ナ、謂^{ヒテ}相如^ニ

曰^{ハク}、「以^テ吾^ノ之^ヲ速^{カフルハ}、易^ニ子^ノ之^ヲ遲^ニ、可^{ナルト}乎^ト。」相如^{ハク}曰^{ハク}、「於^{イデハ}臣^ニ則^チ可^{ナルモ}、未^ダ

知^ラ陛^ノ下^ノ何^ヲ如^ト耳^ト。」上大^{シテ}笑^シ而^ル不^メ責^メ也^ヲ。

（『漢武故事』による）

（注）○上——皇帝。前漢の武帝を指す。

○招求——探し求める。

○遺書——散逸して伝わらなくなつた書物。

○省校——調べて異同をたずなす。

○莊助——人名。武帝の側近。文章家。

○司馬相如——人名。武帝の側近。文章家。

○辞——韻文体の一つ。

○賦——韻文体の一つ。また、(題材をとって)詩や賦を作ること。

○弥時——時間がかかる。

○易——とりかえる。

〔問一〕 傍線部 a「輒」、傍線部 b「亦」について、読み方を平仮名で答えなさい。送り仮名がある場合は、それを含めること(現代仮名遣いで書いてもよい)。

〔問二〕 傍線部 A「使莊助・司馬相如等以類分別之」を書き下し、それを平仮名で書きなさい(現代仮名遣いで書いてもよい)。

〔問三〕 傍線部 B「上每嘆其工妙」について、「其」の内容を明示しつつ現代語訳しなさい。

〔問四〕 傍線部 C「於臣則可、未知陛下何如耳」について、武帝の問いかけに対する司馬相如の返答の含意を、六〇字以内で説明しなさい。

